

1. 本園の教育目標

力いっぱい遊べる子ども

※からだの丈夫な子ども ※生き生きと遊びを工夫する子ども

※ものごとをやり通す子ども ※思いやりのある心豊かな子ども

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を元に設定した学校評価の具体的な目標や計画

努力目標 ～子ども達が主体的に遊べる環境や援助について考える～

普段の保育において子どもが自分のやりたい遊びを見つけ、存分に楽しみ、満足感を得ることができるような環境や教員の援助の仕方について考えていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

I 教育関係

評価項目	取組み状況	自己評価
(1) 計画力		
① 教育理念	園の教育理念や教育方針を理解し、共感しなから保育を進め、自分も明確な教育・保育観を持っている。	B
② 全体的な計画	園の全体的な計画から、長期指導計画が作られていることを理解している。	B
③ 指導計画	長期指導計画からのつながりを意識し、短期指導計画を作成している。また、日々の保育の記録をとり、反省し次の短期指導計画に生かしている。	C
④ 環境構成	子どもの主体的な活動を引き出す用具や材料などを適切に準備し、遊びによっては環境を再構成していく。	B
⑤ 評価反省	自分の保育と計画の評価反省を日々行うように努め、評価反省したことは、次の保育や計画に生かしている。	B
(2) 実践力		
① 幼児理解	一人ひとりの幼児をよく理解するように心がけ、どんなことに興味を持っているかを把握しながら保育を進めている。	B
② 健康安全	朝の視診を大切に、子どもの体調面に配慮し、適切な処置をしている、また、園で危険が予想される箇所を把握し、事故等の予防に努める。	A
③ 幼児対応	子ども一人ひとりの人格を尊重し、子どもにとって最も良い関わりは何かを常に考えている。また、子どもと共に活動し、共感しながら、満足感や心の安定を図っている。	B
④ 保育態度	子どもと同じ目線に立って物を見つめ、子どもの思いに寄り添おうとしている。また、子どもが主体的に活動できるような	A

	言葉がけや働きかけに努める。	
評価項目	取組み状況	自己評価
⑤ クラス運営	個々の子どもを大切に、子ども同士もお互いを大切にする雰囲気がある。環境構成について、日常的に点検している。	B
⑥ 研修研究	研修会や研究会には自己課題を持って参加し、保育技術の習得に止まらず、幼児観や保育観の確立にも努める。	C
⑦ 資質向上	機会あるごとに教員・保育士として専門知識や技能を身に付けようと努力し、実践している。また、仕事の手順を考え、能率よく処理するよう努めている。	B
(3) 管理力		
① 保育管理	保育環境を安心かつ安全に活動できる空間にし、一日の保育の流れや自分の職務の流れをなど、時間管理を適切に行う。	C

## II 素養関係

評価項目	取組み状況	自己評価
(1) 関係性		
① 保護者	クラス便りや連絡帳を通して、子どもの様子を知らせながら保護者との信頼関係を築いていく。また、事故などが起きた場合の保護者への説明や対応を的確に行う。	C
② 地域社会	機会を捉えて地域の人々にこども園を理解してもらう努力をする。また、幼小連絡会等を通して、小学校との連携を密にしている。	C
③ 上司同僚	仕事をする上での適切な距離感を持ち、保育の向上に向けた職員同士のチームワークを築く。また、何でも相談できる雰囲気づくりをしている。	A
④ その他	来園者や電話対応でも、丁寧な言葉で明るく対応している。また、職務上知り得た情報は守秘義務を果たしている。	B
(2) 適性		
① 生活態度	服装・髪型・身だしなみなど清潔感のあるものを心がけ、挨拶などは、明るく親しみを込めている。また、園や教職員、保護者の批判は、軽はずみにしないようにしている。	A
② 向上心	どんな仕事でも楽しく、また前向きに行動する。また、不得手なことにも積極的に取り組もうとしている。	B
③ 情報活用	収集した情報を、保育に取り入れて活かしていく。また、幼児の個人状を整理するとともに、情報保護には細心の注意をはらっている。	B

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	子ども達一人ひとりを大切にすること、主体的に遊べる環境や関わりについて考えながらの保育をする意識は高まってきている。しかし、子どもを見る目であったり、関わりの中にはさらに工夫が必要な部分もあった。また、地域社会との繋がりが薄い部分もあるので、これからできることを模索していく必要がある。

「3.4」の評価の表示方法

A.十分達成されている B.達成されている C.取り組まれているが、成果が不十分 D. 取り組みが不十分

5.今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教職員の資質向上	<p>学園が目指す主体的な保育の実現に向け、全体的な計画、長期指導計画を深く理解し、共有していく。子ども達の実態から見通しを持った計画を立て、適切な環境構成をしながら一人ひとりにより良い保育が提供できるようにする。また日々の振り返りからの保育の見直しを、教員自らが行えるようにしていく。</p> <p>研修に意欲的に参加することで学びにつなげ、教職員の資質向上を図る。</p>
教育・保育活動	<p>子ども主体の保育とは何かを常に問いかけながら、行事のあり方も考えながら進めてきた。子ども達は「やりたい事」が実現されていくことからさらに意欲的になり、達成感や満足感にもつながった。子ども主体の保育が展開できるよう、日々の保育の振り返りを大切にしていきたい。</p> <p>保育の中で、慣例的に行われていることが無いか検証し、教育的観点からの見直しをしていく必要がある。</p> <p>家庭と園とが連携し相互理解することは、子どもの成長に欠かせないことであるため、保護者に教育的観点からの子どもの育ちや保育の発信を丁寧に行い、共有に努めていく。</p> <p>ヒヤリハットの検証を教員間で共有し、危機管理意識の向上に努める。</p> <p>様々な働き方の教員がいるが、学園が目指す教員の行動指針を共有し、同じ方向を見て保育できるようにしていく。</p>